

台湾有事で踏み越える 専守防衛

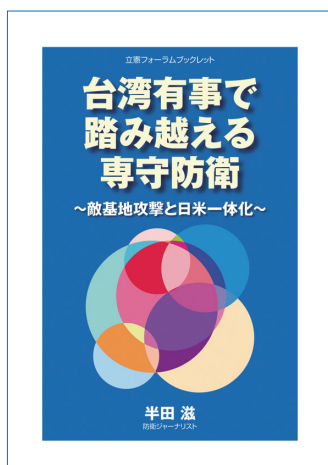
～敵基地攻撃と日米一体化～

半田 滋

防衛ジャーナリスト

申し込み用紙

台湾をめぐる国際安全保障環境の悪化により、戦争に発展するおそれがあります。人類共通の危機を回避するためには各国が熟慮を重ね、外交努力を積み重ねることが重要です。大切なのは安全保障関連法を適用して戦争に参加することではありません。その適用を見合わせることです。日本は先の大戦を経て二度と戦争はしないと誓い、平和主義を掲げる国です。その精神に立ち返り、武力に訴えることなく平和的な問題解決の道を探らなくてはなりません。



内容

- 1 はじめに
- 2 冷戦終結と安全保障関連法を受けた自衛隊の変容
- 3 奄美、沖縄侵攻を想定した日米共同訓練
- 4 米軍が利用する「南西諸島のミサイル網」
- 5 米国の対中政策の変化
- 6 台湾有事が「6年以内」の理由
- 7 安全保障関連法による日本の「巻き込まれ」
- 8 英空母打撃群がインド太平洋へ
- 9 英国が日本の防衛力を重視する理由
- 10 EU各国が視線を向けるインド太平洋
- 11 中国に「けんか腰」で向き合うのか
- 12 米国が中国に核兵器使用を検討した過去
- 13 政権の重鎮さえ理解していない安全保障関連法
- 14 現実味を増す敵基地攻撃能力の保有
- 15 国家安全保障戦略、防衛大綱、中期防を3点セットで改定へ
- 16 防衛費を対GDP比2%以上に急増
- 17 平和的な問題解決の道を探れ

A5判 36ページ 1部 100円（10部以上は送料なし）

申し込み用紙

冊数	
送付先	(〒 -)
お電話番号	
E-mail	
お名前	

お申し込みは **立憲フォーラム**（担当：福田）まで

FAX: 03 - 3303 - 4739

E-mail fukuda@haskap.net